

平成29年度（第1回）二宮町社会教育委員会議 会議録

日 時：平成29年5月16日（火）13時30分より

場 所：二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1

出席者：（社会教育委員） 野村幸雄委員長、橘川昭夫副委員長、江見千秋委員、
関口金由紀委員、蓮實茂夫委員、三宅栄子委員、
目黒美砂緒委員

（事務局） 府川教育長、鐘ヶ江教育部長、椎野生涯学習課長、
三浦図書館長、武井生涯学習・スポーツ班長、佐藤主事

傍聴者なし

資料

- ・会議次第
- ・平成28年度二宮町社会教育事業報告
- ・平成29年度二宮町教育委員会基本方針
- ・平成29年度二宮町教育関係予算
- ・平成29年度二宮町社会教育事業計画
- ・平成29年度社会教育事業報告（平成29年4月1日～4月30日）
- ・平成29年度放課後子ども教室開催要項
- ・平成29年度二宮町社会教育委員関係事業予定

1 開 会

2 あいさつ

3 議題

（1）平成28年度 二宮町社会教育事業報告について

※事務局より資料に基づいて説明。

（事務局） ソフトバレーボール大会の終了後、スポーツ推進委員が主催でバウンスボールをやる方向で、進めている。手でやるテニスのようなもので、4月にプレ大会があった。1チーム3人で、7月の大会は、2日間開催し、1日目は地区の人が対象で、2日目は自由参加とし、誰でもチームを作れば参加できるようにする予定である。

（委 員） ソフトバレーボール大会は、地域の参加、応援がメインであった。地区が対象の1日目は、1地区1チームの参加なのか。

（事務局） 1地区2チームまで参加可能。1チームを5人ぐらいでチームを作ってもらう予定でいる。

（委 員） ソフトバレーはこれまで地域の応援など地域の関わりが多かったが、バウンスボールは、2日目が自由参加ということで、地域よりかは個人の対戦というこ

とか。

- (事務局) 1日目については応援などで地区の方に声をかけるが、PTAなどに声をかけたり、地区で選手を集めてくださいというような働きかけはしない。あくまでスポーツ推進員が中心になって地区で2チームを作ってもらおう。完全に地区を離れるという訳ではない。
- (委員長) 町民大学で人気の講座はどういったものか。
- (委員) 歴史や古典文学の講座が人気で、リピーターが多い。地元を散策するような講座も人気である。
- (委員) 子ども野外研修は前年より参加者は増えたと思うが。
- (事務局) 現在、平成29年度募集のチラシや広報を行っている。土日に習い事をしている子どもが多い状況で、参加率がどうなっていくのかである。
- (教育長) 昨年度の165名は大人のスタッフも含めた人数で、子どもの参加人数は100名を切っている。二宮小学校でのキャンプが始まったことで、二宮小学校の参加者が減った一方で、今年から1泊2日となったことで山西小学校、一色小学校の参加者は増えた。しかし、トータルでは減っている状況である。
- (委員) 自由参加、自由募集で、学校とは関係ないのか。
- (教育長) 学校の先生もボランティアで参加している。やはりかつてと比べて参加者が減っている。今年から小学校全校でキャンプが始まるため、減る可能性がある。町の方針としては、キャンプが全校始まったことをきっかけに、町の主催から降りることを考えている。
- (委員) 洋上体験研修の参加者は7名ということで、10名の定員を満たせていない。昔は違っていたと思うが。
- (事務局) 以前は募集が殺到していたが、韓国など船の事故などが続いた影響もあってか年々参加者が減っている。

(2) 平成29年度 二宮町社会教育事業計画について

※事務局より資料に基づいて説明。

- (委員) 子ども野外研修について、予算を含めどのような計画を考えているのか。
- (教育長) 次年度から子育て連が主催で、町は協力するが、地域の力でキャンプをやってほしいと考えている。今年度については昨年並みとなっている。
- (委員) 野外研修だが、小学6年生のキャンプとしては、大人の参加人数が多いなと思う。放課後子ども教室でも、サポーターとして参加していて、そのように感じた。小学生になると自分で考えて行動するということが大事であり、実際にこれほどの人数が必要なのか。幼稚園で勤務しているが、幼稚園の1泊2日のキャンプでは、子どもたち60名に対して、職員10名で連れて行っている。そういった状況を見ると、規模は違うかもしれないが、どうなのかなと思う。また、コミュニティスクール導入に向けて検討しているということだが、こういった手順で進めているのか。
- (教育長) 確かにキャンプの大人の参加割合は高い。昔に比べ子どもの人数は減ってきて

いる中、現在の小学校 6 年生の参加率は 45%である。子どもたちの安全を考えて、青少年指導員や子育ての人たちは昔と同じように参加している。確かに子どもたちの安全性は高いが、自由度は低い。大人の目が行き届きすぎて、大人の決めたスケジュールで動いているというのが今のキャンプの傾向だと思う。コミュニティスクールについては、一色小学校区の地域再生、町の全体の企画として、一色小学校区、とりわけ百合が丘地区の県住宅供給公社が持つ団地をリノベーションして、町外の若い人に移住してもらうという事業を中心に再生事業が、地域再生協議会のもと行われている。それに合わせて、一色小学校をコミュニティスクール化しようと思った。コミュニティスクールの定義は何かというと、学校運営協議会という組織を置いた学校のことを指す。学校運営協議会とは、地域の代表者が学校長に対してこういう教育をして欲しいなどといった意見を申し出ることができ、なお且つ、学校長の運営方針に対して承認を与えることができるシステムである。地域の中の学校、地域と共にある学校ということで、地域住民の協力、定年退職した方の力をPTAの保護者の代わりに借りて、事業の支援、放課後子ども教室の支援、見守りの支援といったあらゆる学校支援をしていただくことを目的とした組織である。現在、運営協議会の準備委員会を立ち上げて、その委員の人に地域から人材をひっぱりつけてもらい、学校支援をしていただくよう進めている。しかし残念ながら、地域再生協議会から思うような協力が得られていないという現状がある。

来年度、一色小学校はコミュニティスクールとして指定をしていくつもりである。地域全員の協力を得るのは難しいが、少しずつ地域の協力者を増やしていき、共働きの保護者が多いとはいえ、若い保護者世代に地域や地域の役員に目を向けてもらい、将来、地域の役員になってもらいたいという、後継者作りという目的もある。教育委員会として、いずれ小学校全校だけでなく、中学校にも、今の学校評議委員会に代わるより権限を持った組織として、コミュニティスクール、学校運営協議会制度を取り入れていくつもりである。

(委員) 具体的にはどのようなイメージがあるのか。

(教育長) 放課後子ども教室、朝帰りの見守りや旗振り、また家庭科や体育などといったいろんな教科の教育カリキュラムを地域の方により明らかにして、参加できる場所に地域の力をいただきたい。例えば、子どもチャレンジ教室を担っている方に学校へ来てもらい、理科の実験のお手伝いしてもらうなど、学校の先生のお手伝いを地域の方々にしていただくと考えている。

(委員) 今年度、放課後子ども教室が 1 校あたり 3 回となるが、前回の会議で、もう 1 回を地域再生協議会でという話があったかと思うが。

(教育長) 地域の方々に放課後子ども教室の運営をしてもらおうと計画したが、そこまでに至っていない。地域の方が学校の子どもの世話をすることでつながりができ、結果的に地域再生につながると思うが、今の役員の方からは、学校を地域に開放して、集会や健康体操をしたりする施設として校舎を一部開放してほしいといった意見が出ている状況である。

- (委員長) コミュニティスクールができると、学校評議員が必然的に無くなるということか。
- (教育長) そうである。現在の学校評議員という名称が学校運営協議会委員になり、権限も増える。権限も増える代わりに、その委員の方に地域の人を集めてもらい、学校を支援しながら、授業に対しての意見など、学校の運営に入りこんだ組織にしていくというのが考え方としてある。今回、二宮モデルを作ってもいいという法改正になったので、二宮モデルを作りたいと思う。
- (委員) 発足当時の学校評議員は、学校運営に関する助言を学校長から求めるという形だった。その後、二宮町で学校評議員をやったところ、学校側からこういったことを学校で研究をしていますといった、研究の膨大な資料を提示された。10年の間で随分と変わった。印象としては最初の頃に戻った感じがする。
- (教育長) 形式化してきたところがある。学校教育法の施行規則に定められたのが学校評議員だが、学校運営協議会は、地方行政の組織及び運営に関する法律の中で、権限がもっと重くなった。そうすると全国で10%も入ってくれないということで、国は方針を変えて、学校の応援組織にしようとの4月に法改正を行った。
- (委員) 地域も地域で大変という状況で、地域に学校を支える力があるかどうか。
- (教育長) 地域の役員の方は、1人で何役を担っている現状がある。その方にお手伝いと言っても難しい。誰か他の人にお手伝いと言っても、人がいないのが実態のようである。
- (委員長) 時代的に、地域の人と学校とが協力していかないと成り立っていかない。
- (委員) いつも同じような方に、いろいろと兼ねて頂いている。力のある方は地域にたくさんいるが、きっとその方々へのつながりができていない。
- (教育長) 人集めの方法について社会教育委員会議で話題にできれば。地域の人材集め、地域再生や相互扶助に向けてどういった活動をしていったらいいのか。
- (委員長) 子ども野外研修に大人が多いということだが、青少年指導員からは、キャンプに大人が参加することで、地域で子供たちと挨拶ができ、つながりを持つことができるから、キャンプに大人はたくさんいた方がいいという話だった。確かに大人の参加が多いと自由度が少ないということはある。地域で、子どもたちと会話やコミュニケーションが取れるように、少しでも大人の参加を多くしたいということだった。
- (委員) かつて子どもの参加が多い時代は、大人の参加人数も多かったと思うが、今、子ども参加人数が減ってきている状況で、子どもと大人が同数近くになっている。今年度、小学校のキャンプがあることで、参加率が落ちる可能性はある。地区の子ども会では、地区への大人の人数割り当てが負担となり、子どもの参加を抑えているということもあると思う。先ほど話もあったが、小学校6年生が対象ということで、大人の人数を減らすことも可能ではないか。募集時に、大人の人数の検討が必要であると思う。
- (事務局) 中間報告にはなるが、子どもの参加人数は去年と同数ぐらいと聞いている。昨年は申込受付を子ども会経由でなく、直接生涯学習課にとしたところ、一般の

申込みが多かったが、今年は子ども会経由で申込みに戻したことで、子ども会からの参加が多いといった状況である。昨年は、確かに大人の参加が多かった。今年については、現在、青少年指導員を除いて去年の6割ぐらいの申込人数であり、追加の募集をしなければ、大人の人数を減らした形で進めていくことはできる。

(委員) 先ほど社会教育委員会方針等を読み上げていただいたが、社会教育費の予算について、今年度は前年度より増えている。どこの市町村も生涯学習活動を減らしている中、二宮町は小さい町ではあるが、教育委員会方針等に記載し、旗振りをしてきている。そういったことができる町になっていることは嬉しい。

(委員長) どれも予算を減らしているなか、若干でも増えていることは喜ばしいことである。

(3) 平成29年度二宮町社会教育事業報告について(平成29年4月1日~4月30日)

※事務局より資料に基づいて説明。

(委員) ジュニアリーダー養成研修会で、野外炊事が主な内容で目的となっているのは、リーダーの養成という面からは疑問に思う。今の時代は、自ら決断したり行動したりということが、これからの子どもたちに求められることであり、キャンプに行くことが、ジュニアリーダー養成の事業となっているのは、確かに楽しみではあるとは思いますが、疑問に感じる。今年度はこういった計画になっているが、今後、どのようにジュニアリーダーを養成していくのか、子どもたちの有意義な力になるかを考えた事業になってほしいと思う。

(事務局) 本来は、キャンプでのジュニアリーダーの活動の姿を子どもたちが見て、自分もこうなりたい、地域でこういった活動をしたいなという気持ちが湧くような事業を展開していかないと、キャンプが一つの楽しみで終わってしまう可能性がある。ジュニアリーダーが地域でいろんな活動をして、リーダーに憧れるような活動をしていかないと、先が難しい。参加した小学6年生が、キャンプを通して、ジュニアリーダーになってくれるような循環が出来ればいいが、そこまで至っていない。

(委員) ジュニアリーダー養成研修会に参加した12人は、中学生なのか高校生なのか。

(事務局) ジュニアリーダーは主に中学生で、高校生以上がシニアリーダーとなっている。

(委員) 12人は大人も入っているのか。

(事務局) ジュニアリーダーとシニアリーダーの人数である。

(委員) 中学生で意識的に参加しようとする子が少ない。

(事務局) 子どもたちに、キャンプが思い出作りだけでなく、リーダー育成の場という部分が伝わっていない。

(委員) 子どもにも保護者にも伝わっていないのでは。関連があるということをしてPRしないといけない。

(委員長) 小学校でキャンプをし、更に、ジュニアリーダーのキャンプで野外炊事となっている。野外炊事も一つだが、何かプラスアルファがないと。

- (委 員) ジュニアリーダー養成研修の対象は、中学生から概ね 20 才前後の青少年となっているが、シニアリーダーや青少年指導員も入る研修になっているということか。中学生向けの研修として専門的なことはできていないということか。
- (事務局) 入っている人たちだけの研修となっている。
- (委 員) 「地域の通いの場」が 4 月から始まり、町から健康運動指導士さんが派遣されてくるが、講師としていろんな指導してくれて大変良い。こういう方を呼んで、中学生や高校生を指導してもらい、地域で学生や高校生が、地域のお年寄りなどに、スポーツや運動などをやっていくと少しは違ってくるのかと。
- (委 員) 研修後にレポートやアンケートなどを書かせているのか。
- (事務局) 参加者にアンケートをとっている。研修内容で、個人年間目標を作ってはいる。
- (委 員) 目標などはおもしろい。これを参考にして役立てることが出来れば。
- (委 員) 例えば防災などで、ジュニアリーダーが地域で主体になって活動しようといった提示をするなど、今の中学生の力を信じ、その力を生かすことができる研修が有意義な研修であると思う。
- (委 員) 図書館だよりが昨年度は 3 月に町内回覧があったが、今年度もあるのか。
- (事務局) 今年度も予定している。
- (委 員) 図書館だよりは、皆さんが読んでいると思うし、回覧があると目に付くのかなと思う。

(4) 平成 29 年度 放課後子ども教室について

※事務局より資料に基づいて説明。

- (委 員) 昨年度の説明では、回数の減少の理由として、運営をコミュニティスクールなどといった地域に関わってもらうことと職員の負担軽減のためという話しであったが、一色小学校地区再生協議会の中であまり進んでいないということで、コミュニティスクールなどへの移行時期がわからないという状況は、残念である。
- (委 員) 回数が減ったままになってしまう可能性がある。

(5) 平成 29 年度 二宮社会教育委員関係事業予定

※事務局より資料に基づいて説明。

(6) その他

- ・配布資料について事務局より説明。
- ・研究テーマ「将来を担う青少年の健全育成について」委員長、副委員長より説明。

4 閉会 15 時 21 分閉会